

第 6 期障害福祉計画における成果目標の評価等について

○計画期間における数値的な結果は、下記のとおりとなっており、目標等管理シートを活用する中で、PDCAサイクルを実施する。

1 施設入所者の地域生活への移行

(1) 令和元年度末の施設入所者のうち、地域生活への移行者数

項 目	基準値	区分	第 6 期			比較
			R 3	R 4	R 5	
地域生活移行者数	72人	目標値	－	－	4人	－
		実績値	0人	0人	－	▲ 4人

(2) 施設入所者の削減数

項 目	基準値	区分	第 6 期			比較
			R 3	R 4	R 5	
施設入所者の削減見込者数	72人	目標値	－	－	0人	－
		入所者数	74人	74人	－	－
		比 較	2人	2人	－	2人

2 精神障害者が地域で安心して暮らせる支援体制（地域包括ケアシステム）の構築

目標値	取 組 内 容
数値目標なし	保健、医療、福祉関係者による協議の場として、精神障害者が地域で安心して暮らせる支援体制の構築のため、地域包括ケアシステム構築推進連携会議を開催し、情報共有や事例検討等を実施し関係機関の連携を図った。

3 地域生活支援拠点等の整備

目標値	取 組 内 容
優先度の高い機能から段階的に整備を進める。	大神町4丁目の市有地を活用して地域生活支援拠点等の整備について検討を頂き、その意見を基に施設整備について改めて市が検討行ったが、市の浸水想定地域に指定されている該当の市有地を活用しての地域生活支援拠点の整備は、施設の特性から整備が厳しいと判断した。引き続き、庁内関係機関と協議し、市有地等を活用しての施設整備について検討を進める。

4 福祉施設から一般就労への移行等

(1) 就労移行支援事業所等を通じて、令和5年度中に一般就労に移行する者の数

項 目	基準値	区分	第 6 期			比較
			R 3	R 4	R 5	
年間一般就労移行者数	5人	目標値	－	－	8人	－
		実績値	8人	14人	－	14人
移行支援事業による年間一般就労移行者数	5人	目標値	－	－	7人	－
		実績値	8人	14人	－	15人
就労継続支援B型事業による年間一般就労移行者数	0人	目標値	－	－	1人	－
		実績値	0人	0人	－	▲ 1人

(2) 就労定着支援事業の利用者数

項 目	基準値	区分	第 6 期			比較
			R 3	R 4	R 5	
就労移行支援事業により一般就労に移行する者のうち就労定着支援事業の利用者数	70%	目標値	－	－	70%	－
		移行者数	8人	14人	－	－
		利用人数	3人	7人	－	－
		実績値	38%	50%	－	▲ 20%

5 相談支援体制の充実・強化等

目標値	取 組 内 容
検討	地域支援協議会相談支援部会及び市内3か所の委託している相談事業所との連携を強化し、事例検討や地域課題を抽出し解決に向けた具体策の検討を行った。地域生活支援拠点等整備の一環として、基幹相談支援センターの設置については、庁内の関係機関と協議し、引き続き具体的な検討を進める。

6 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築

目標値	取 組 内 容
実施体制の構築	東京都及び心身障害者福祉センターの実施するケースワーカーの専門研修や保健師の専門研修、医療的ケア児のコーディネーター養成研修に参加し、知識の修得を図った。

第 2 期障害児福祉計画における成果目標の評価等について

○計画期間における数値的な結果は、下記のとおりとなっており、目標等管理シートを活用する中で、PDCAサイクルを実施する。

1 障害児支援の提供体制の整備等

(1) 児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の体制整備

目標値	取組内容
設置	昭島市児童発達支援センター「子ども発達プラザ ホエール」を開設し、保育所等訪問支援事業所についても 1 か所開設している。

(2) 重症心身障害児の支援体制の整備

目標値	取組内容
1 か所以上の設置	重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所について各 1 か所開設している。引き続き、重症心身障害児の新たな事業所の確保について検討していく。

(3) 医療的ケア児支援のための関係機関等の協議の場の設置

目標値	取組内容
設置に向けた検討	医療的ケア児支援の関係機関等との協議の場の設置については、庁内で検討し、令和 5 年度の設置を決定した。また、職員 1 名が医療的ケア児コーディネーターの研修を受講しており、今後、配置についても検討を図る。

成果目標		1 施設入所者の地域生活への移行			
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】			
		①地域移行生活者の増加			
		区 分	目標値	目標値設定の考え方	
		地域生活移行者数	4人 (5.6%)	令和元年度末時点の施設入所者数(72人)のうち、4人がグループホーム等へ移行することを基本とする。	
		②施設入所者の削減数			
		区 分	目標値	目標値設定の考え方	
		削減見込者数	72人を 超えない	令和元年度末時点の施設入所者数(72人)を超えないことを基本とする。	
		【実績値】			
	区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	①地域生活移行者数	0人	0人	－	
	②施設入所者数	74人	74人	－	
	主な 活動指標 (内 容)	【活動指標等の一覧】			
		区 分		令和3年度	令和4年度
就労移行支援の利用者数		見込量	27人	28人	29人
		実績値	30人	23人	－
共同生活援助(グループホーム)の利用者数		見込量	120人	130人	140人
		実績値	141人	153人	－
地域移行支援・地域定着支援の利用者数		見込量	2人	2人	2人
		実績値	2人	2人	－
施設入所支援の利用者数 ※施設入所者数の削減		見込量	72人	72人	72人
		実績値	74人	74人	－
区 分		評価 (C)	協議会等意見		改善 (A)
	【目標等を踏まえた評価や改善方法】	【評価等に対する意見】		【次年度における取組等】	
令和3年度	死亡等による退所者が2名あったが、入所希望者4名が入所できたことから、施設入所者数が目標値を上回った。引き続き地域相談事業所と連携を図る中で、地域移行支援への取組を進めたい。	遠隔地の入所者の状況把握をどのように実施しているのか。状況把握の際、地域生活移行の意思を確認してほしい。目標が達成できていないのであれば、その経過を説明してほしい。 関係機関との連携が必須だが、地域資源の充実も必要となる。		施設の訪問時等に施設入所者本人や関係者から聞き取りを行う中で、本人や家族の意向を十分尊重し、入所者の状況を把握しながら地域移行への取組に努める。 地域生活支援拠点の整備により、地域資源の充実を進めていく。	

成果目標	1 施設入所者の地域生活への移行		
令和 4 年度	<p>死亡等による退所者が4名あったが、入所希望者4名が入所できたことから、施設入所者数が目標値を上回った。入所者の希望や状況等の把握に努め、地域移行支援への取組を進めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none">・現在施設入所中の方の地域移行が適切かどうかは疑問だが、施設入所者を減らすには、新たな入所者を出さないよう努力すべきではないか。市内にグループホームを誘致し、新たな利用者のためのベッドを2床程度、常時確保するといった支援が必要。・評価欄の記載を見ても、成果目標について状況が報告されているだけで、具体的に目標を達成するための取組が見えない（前年度も同様）。具体的な取組を実施したのであれば、報告していただきたい。何もしていないというのであれば、目標として設定する意味がないのではないか。調べた結果、地域移行のニーズがどの程度なのか、報告してほしい。・コロナ禍で訪問による聞き取り調査が実施できなかったため、改めて訪問の意向を確認中と同った。今後も地域生活移行に向け、引き続き取組を進めていただきたい。・引き続き、入所者の希望や状況等の把握に努めていただきたい。また、地域移行への意思を有していながら叶わない場合、原因を確認する必要があると思われる。	<p>新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、令和2年度以降、障害者支援施設への訪問が実施できておらず、施設入所者のニーズを聞き取ることができていない状況にある。今後、施設入所者に対し、電話やアンケート調査等の実施を検討し、地域移行に関するニーズの把握に努めていく。</p> <p>また、地域生活支援拠点等の整備を進めていく中で、体験の場・機会としてのグループホーム等の確保に努める。</p>
令和 5 年度			

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標		2 精神障害者が地域で安心して暮らせる支援体制（地域包括ケアシステム）の構築					
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】					
		目標値		目標値設定の考え方			
		数値目標なし		保健・医療・福祉関係の協議の場での協議を重ね、退院後の地域生活を継続して支える相談・見守り体制の整備を図る。			
	主な活動指標 (内 容)	【活動指標等の一覧】					
		区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		保健、医療及び福祉関係者による協議の場の開催回数		見込量	12回	12回	12回
				実績値	10回	12回	—
		協議の場への参加者数	保健	見込量	36人	36人	36人
				実績値	11人	30人	—
			医療：精神科	見込量	6人	6人	6人
				実績値	9人	18人	—
			福祉	見込量	102人	102人	102人
				実績値	107人	133人	—
		保健、医療及び福祉関係者による協議の場における目標設定及び評価の実施回数		見込量	1回	1回	1回
				実績値	1回	1回	—
区 分	評価（C）		協議会等意見		改善（A）		
	【目標等を踏まえた評価や改善方法】		【評価等に対する意見】		【次年度における取組等】		
令和3年度		精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築推進連携会議は、コロナ感染症の感染拡大により2回中止、一部Web開催となったが開催できた。今後は、保健、医療、福祉関係に関する事業者と行政機関の情報共有や連携を図り、地域課題の抽出を行い、課題を基に地域づくりの検討を図る。		関係機関との連携が進むことについては評価できる。長期入院からの地域移行には対応した受け皿が必要であり、事業所等の体制整備を推進してもらいたい。 関係機関との連携が必須だが、地域資源の充実も必要となる。 協議の場の会議体について、現状は保健・医療・福祉関係者による会議体となっているが、当事者やその家族、一般の市民も加わった会議体にしてほしい。		令和4年度においても毎月、関係機関による会議を実施していく。 また、第6期障害福祉計画の目標には定めていないが、令和4年度より地域の精神障害者に対するアウトリーチ支援事業を開始し、未治療や医療中断等のため地域社会での生活に困難を来している精神障害者の支援を行い、精神障害者の社会的自立や地域定着を図る。	

第 6 期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標	2 精神障害者が地域で安心して暮らせる支援体制（地域包括ケアシステム）の構築		
令和 4 年度	保健・医療・福祉関係者による協議の場として、事務連絡会 6 回、事例検討会 6 回、学習会 1 回を開催し、関係機関の連携と情報共有を図った。また、未治療や医療中断等のため地域社会での生活に困難をきたしている精神障害者の社会的自立や安定した地域生活のため、アウトリーチ支援事業を開始した。	<ul style="list-style-type: none">・初期相談は市役所窓口、又は一般相談の窓口で対応するか。また、片方が双方か明らかにする。地域移行後の就労移行支援、就労定着支援を。地域包括支援ネットワークを評価し、方針を立てる会議体に当事者や家族、市民を含めて開設してもらいたい。・精神障害者のためのアウトリーチ支援事業はとても良いことであると考える。まだケースは少ないが、そのような取組を事例として、関係機関にも共有し、現場レベルでの実践の活性化に繋げてもらいたい。・アウトリーチ支援事業について、実施しての評価と見えてきた課題があれば今後の協議会で共有していただきたい。・活動指標のいずれにおいても、前年度並み又は前年度より実績値が増加しており、着実に取組が進められていると評価できる。アウトリーチ支援事業についても、引き続き推進していただきたい。・アウトリーチ支援事業は未受診の引きこもり者等も対象となっているが、具体的な取組や対応事業所等、市民が利用しやすい掲示や周知があると良いのでは。	<p>令和 4 年度より新規に開始したアウトリーチ支援事業については、令和 4 年度の実施結果を踏まえ、事例検討会等で情報共有を図り、今後の進め方等を検討し、実績を積み重ねていく。</p> <p>令和 5 年度においても関係機関による会議を実施し、当事者の意見をどのように反映させていくか検討を進める。</p>
令和 5 年度			

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標		3 地域生活支援拠点等の整備									
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">目標値</th> <th>目標値設定の考え方</th> </tr> <tr> <td>優先度の高い機能から段階的に整備を進める。</td> <td>これまでの地域生活支援拠点プロジェクトからの「地域生活支援拠点に求める機能」の提案を基本として、地域支援協議会と連携し、市内に不足している障害者施設の規模や機能等を踏まえ、令和3年度中に市有地の活用等を前提として、具体的な取りまとめを行う中で、面的な整備の取組を進め、令和5年度中には、基幹相談支援センターを含めた全体的な整備の方向性を決定する。</td> </tr> </table>			目標値	目標値設定の考え方	優先度の高い機能から段階的に整備を進める。	これまでの地域生活支援拠点プロジェクトからの「地域生活支援拠点に求める機能」の提案を基本として、地域支援協議会と連携し、市内に不足している障害者施設の規模や機能等を踏まえ、令和3年度中に市有地の活用等を前提として、具体的な取りまとめを行う中で、面的な整備の取組を進め、令和5年度中には、基幹相談支援センターを含めた全体的な整備の方向性を決定する。			
	目標値	目標値設定の考え方									
	優先度の高い機能から段階的に整備を進める。	これまでの地域生活支援拠点プロジェクトからの「地域生活支援拠点に求める機能」の提案を基本として、地域支援協議会と連携し、市内に不足している障害者施設の規模や機能等を踏まえ、令和3年度中に市有地の活用等を前提として、具体的な取りまとめを行う中で、面的な整備の取組を進め、令和5年度中には、基幹相談支援センターを含めた全体的な整備の方向性を決定する。									
	主な活動指標 (内容)	【活動内容】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 15%;">年 度</th> <th>取 組 内 容</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和3年度</td> <td>障害者地域支援協議会において、昭島市における地域生活支援拠点等の面的整備に向けて集約された課題を踏まえて、大神町4丁目の市有地を活用しての地域生活支援拠点等の面的整備における1つの機能として整備することについて検討を進めた。また、不足している障害者福祉施設の整備についても検討を進めた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和4年度</td> <td>大神町4丁目の市有地を活用して地域生活支援拠点等の整備について検討を頂き、その意見を基に施設整備について改めて市が検討したが、施設特性から整備が厳しいと判断した。引き続き、庁内関係機関と協議し、市有地等を活用しての施設整備について検討を進めた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和5年度</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </table>			年 度	取 組 内 容	令和3年度	障害者地域支援協議会において、昭島市における地域生活支援拠点等の面的整備に向けて集約された課題を踏まえて、大神町4丁目の市有地を活用しての地域生活支援拠点等の面的整備における1つの機能として整備することについて検討を進めた。また、不足している障害者福祉施設の整備についても検討を進めた。	令和4年度	大神町4丁目の市有地を活用して地域生活支援拠点等の整備について検討を頂き、その意見を基に施設整備について改めて市が検討したが、施設特性から整備が厳しいと判断した。引き続き、庁内関係機関と協議し、市有地等を活用しての施設整備について検討を進めた。	令和5年度
年 度	取 組 内 容										
令和3年度	障害者地域支援協議会において、昭島市における地域生活支援拠点等の面的整備に向けて集約された課題を踏まえて、大神町4丁目の市有地を活用しての地域生活支援拠点等の面的整備における1つの機能として整備することについて検討を進めた。また、不足している障害者福祉施設の整備についても検討を進めた。										
令和4年度	大神町4丁目の市有地を活用して地域生活支援拠点等の整備について検討を頂き、その意見を基に施設整備について改めて市が検討したが、施設特性から整備が厳しいと判断した。引き続き、庁内関係機関と協議し、市有地等を活用しての施設整備について検討を進めた。										
令和5年度	—										
区 分	評価 (C)	協議会等意見	改善 (A)								
	【目標等を踏まえた評価や改善方法】	【評価等に対する意見】	【次年度における取組等】								
令和3年度	大神町4丁目の市有地の施設整備の可否について地域支援協議会にて具体的に検討し、地域課題があるが、面的整備の一つとしての整備する方向性で理解を頂いた。 今後、協議会での検討内容を踏まえ、関係機関と整備について検討を図る。基幹相談支援センターの設置について、引き続き具体的な検討を進める。	面的整備という一定の方向性が示されたことは評価したい。面的整備には多くの関係機関を調整する機能が重要であり、市の方向性や手腕に期待している。 生活や訓練の場だけでなく、就労も視野に入れ、各関係機関（地域活動支援センター、相談事業所、就労支援センター、移行支援事業所等）が連携を密に取れる方向でお願いしたい。	大神町4丁目の市有地を活用した施設整備について検討頂いた結果を踏まえ、面的整備に向けて整備計画を検討する。基幹相談支援センターの設置の時期等を含め、具体的に庁内関係機関と協議し、検討を進める。								

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標	3 地域生活支援拠点等の整備		
令和4年度	<p>地域支援協議会での意見を踏まえ、市として大神町4丁目の市有地の活用について検討を行ったが、施設の特性からも難しいとの見解に至り、他の市有地や都有地での施設整備について、庁内関係機関と引き続き具体的な検討を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急一時支援、ショートステイ、グループホームといった機能が不足している。 ・全体の方向性としては面的整備で結論が出ていると認識している（市有地検討はその一部でしかない）。今後、地域資源を面的として連携・調整できるような形にするためには、行政の積極的な働きかけがないと実現しない。市には事業者の動きを待つことなく、市が中心となった構築を目標としていただきたい。 ・面的整備による、より一層の機能充実及び施設整備を引き続きお願いしたい。 ・基幹相談支援センターの必要性に鑑み、引き続き、他の市有地や都有地での施設整備について検討を進めていただきたい。 ・2025年問題が目前となり、拠点がなくことで情報が一元化せず、利用者やサービスの担い手の過度な負担が増加しており、サービスが不足している現状がある。具体的にどのようなことを協力すれば可能になるのか。今一度、検討をお願いしたい。 	<p>地域生活支援拠点等の整備について、引き続き庁内関係部署と調整等に努め、市有地等を利用した施設整備の検討を進めていく。</p> <p>また、面的整備型の手法については、東京都や各市が開催する研修や連絡会において他自治体の事例等を参考にするとともに、今後、市内障害福祉サービス事業所へのアンケート調査等を検討する。</p>
令和5年度			

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

基本指針の目標		4 福祉施設から一般就労への移行等			
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】			
		①就労移行支援事業所等を通じて、令和5年度に一般就労に移行する者の数			
		区 分	目標値	目標値設定の考え方	
		年間一般就労移行者数	8人 (1.6倍)	福祉施設を退所して一般就労する人数	
		移行支援事業による年間一般就労移行者数	7人 (1.4倍)	移行支援事業により、一般就労した人数	
		就労継続支援B型事業による年間一般就労移行者数	1人 (一倍)	平成27年度から令和元年度までの5年間において2人であることを考慮し、令和5年度に1人が一般就労する者の数として設定	
		②就労定着支援事業の利用者数			
		区 分	目標値	目標値設定の考え方	
		就労定着支援事業の利用者数	70%	就労移行支援事業により一般就労に移行する者のうち、就労定着支援事業を利用する者が7割になることを目指す。	
		【実績値】			
区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
年間一般就労する人数		8人	17人	—	
移行支援事業による年間一般就労移行者数		8人	17人	—	
就労継続支援B型事業による年間一般就労移行者数		0人	0人	—	
就労移行支援事業により一般就労に移行する者のうち、就労定着支援事業の利用者数	利用人数	3人	7人	—	
	利用率	38%	50%	—	
区 分	評価（C）	協議会等意見		改善（A）	
	【目標等を踏まえた評価や改善方法】	【評価等に対する意見】		【次年度における取組等】	
令和3年度	事業所の取組により一般就労へ8人が移行し、そのうち3人が就労定着支援事業を利用している。今後、地域支援協議会の就労支援部会とも連携を図る中で、一般就労者の増加及び定着につなげていきたい。	市内の就労移行支援事業所が減少しており、事業者の努力だけでは安定した就労者の輩出は望めない。就労支援部会の活性化に市が協力してもらいたい。 就労定着支援について、3年後の支援もあると良い。就労支援センターに情報提供等があれば、より長期の定着が可能。 一般就労の増加及び定着について、具体的にどうするのか、連携だけでは少し弱い。		各事業所において引き続き取組を継続し、市においても障害者雇用の取組を進めるとともに、障害者地域支援協議会や障害者就労支援センターと連携を図り、一般就労の増加を進めていく。 令和4年度においては昭島市商工会に対し、障害者雇用に関するチラシ等配布による周知を行う。	

第 6 期障害福祉計画 目標等管理シート

基本指針の目標		4 福祉施設から一般就労への移行等	
令和 4 年度	令和3年度と比較して一般就労への移行人数、移行支援利用人数、就労定着支援事業利用人数が増加した。引き続き、地域支援協議会の就労支援部会とも連携を図る中で、一般就労者の増加につなげていきたい。	<ul style="list-style-type: none">・就労支援事業の予算を増加してもらいたい。・就労者の輩出については市内事業者の活動状況に左右される。さらなる安定的な雇用につなげるため、市から企業への働きかけや庁舎内での雇用促進等、具体的な雇用に繋がる協力を期待したい。・就労継続支援B型による年間一般就労移行者数を除き、いずれも前年度より実績値が増加している点は評価できる。就労支援部会との連携を進め、さらなる一般就労の増加に努めていただきたい。・地域の就労移行事業所や就労継続支援B型事業所、就労支援センターの連携した仕組みができると良い。	各事業所において引き続き取組を継続する一方、障害者地域支援協議会の専門部会である就労支援部会と協議し、就労継続支援B型事業所通所者等の就労移行を進めるため、市役所での職場実習等受入れについて庁内関係部署と協議を進めていく。
令和 5 年度			

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標		5 相談支援体制の充実・強化等			
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】			
		目標値	目標値設定の考え方		
		検討	地域支援協議会相談支援部会及び市内3か所の委託している相談事業所との連携を強化し、未設置である基幹相談支援センターの設置の検討をする中で相談支援体制の充実と強化を図る。		
	主な活動指標 (内 容)	【活動指標等の一覧】			
		区 分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		総合的・専門的な相談支援の実施見込み	検討	検討	検討
		相談支援事業者に対する専門的な指導・助言件数	—	—	—
		相談支援事業者の人材育成の支援件数	—	—	—
		相談機関との連携強化の取組実施回数	—	—	—
	区 分	評価（C）	協議会等意見		改善（A）
【目標等を踏まえた評価や改善方法】		【評価等に対する意見】		【次年度における取組等】	
令和3年度	相談支援体制の強化のため、相談支援部会において事例検討や地域課題を抽出し課題解決に向けた具体策の検討を図る。障害者地域支援協議会において、昭島市における地域生活拠点等整備の一環として、基幹相談支援センターの設置について協議し、引き続き具体的な検討を進める。	基幹相談支援センターの設置・機能の充実が成果目標の完成であり、市には具体的な整備を期待する。 就労支援センター利用者の情報共有・連携強化をお願いしたい。就労支援センターには企業からの求人相談があるものの、紹介可能な人材がおらず、機会損失に繋がっている。		地域の相談支援体制の強化のため相談機関の拠点となる基幹相談支援センターの設置について、引き続き協議を行い、設置の時期等を含めた具体的な検討を進める。	

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標	5 相談支援体制の充実・強化等		
令和4年度	<p>地域の相談支援体制の強化のため相談機関の拠点となる基幹相談支援センターの設置について、庁内関係部署と引き続き協議を行い、令和5年度中には、設置の可否を含めた具体的な検討を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される相談事業所、一般相談の再建強化を。障害の有無や種別を問わず、乳幼児から高齢者まで切れ目のない支援を。24時間365日開設を。相談に対し「分かりません」「出来ません」と答えず、「教えてください」「お調べしましょう」「ここまでできますから、いっしょに考えていただけませんか」といった相談対応を。 ・国からの基本指針見直しの中で、基幹相談支援センターの推進が明記されている。設置の否という選択はありえないのではないかと。設置の可否ではなく、市の規模にあった体制作りの検討を進めていただきたい。 ・基幹相談支援センターの設置により相談支援体制の強化に繋がるため、設置の検討を引き続きお願いしたい。また、面的整備による相談体制の充実を引き続きお願いしたい。 ・基幹相談支援センターの必要性に鑑み、引き続き、他の市有地や公有地での施設整備について検討を進めていただきたい。 ・基幹相談支援拠点がなくにより、多様化した情報の一元化や必要なサービスに辿り着かない、辿りつくまでに長い時間が経過し、利用者やサービスの担い手に過度な負担が増加したり、サービスが不足する等の現状がある。具体的にどのようなことを協力すれば可能になるのか。今一度、検討をお願いしたい。 	<p>基幹相談支援センターの設置については、庁内関係部署と引き続き協議を行い、具体的な方向性等を検討し、地域支援協議会に諮り検討を進めていく。</p>
令和5年度			

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標		6 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築				
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】				
		目標値		目標値設定の考え方		
	実施体制の構築		東京都や心身障害者福祉センター等が実施する研修を積極的に活用し、職員の知識の理解や修得を図る。毎月の国民健康保険団体連合会からの審査結果の情報共有に努める。また、利用者からの評価等の活用についても検討する。			
	主な活動指標 (内 容)	【活動指標等の一覧】				
		区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
各種研修への市職員参加人数		見込量	5人	5人	5人	
		実績値	7人	6人	－	
障害者自立支援審査支払等システム等による審査結果の共有回数		見込量	1回	1回	1回	
	実績値	1回	1回	－		
区 分		評価（C）	協議会等意見		改善（A）	
		【目標等を踏まえた評価や改善方法】	【評価等に対する意見】		【次年度における取組等】	
令和3年度		東京都及び心身障害者福祉センターの実施するケースワーカーの専門研修や保健師の専門研修に参加し、知識の習得を図った。また、市内の放課後等デイサービス事業所に対して国民健康保険団体連合会からの審査の注意点等の情報共有を図った。	各種研修が活用されていることは評価したい。 日常的に研修するシステムが必要であり、有料オンライン形式のものは質の良い研修であるが、金銭面で市からの補助があると良い。 市内の放課後等デイサービス事業所による情報共有や意見交換の場が必要。		コロナ禍において集合形式の研修は縮小しているものの、オンライン研修が行われているため、東京都等が実施するケースワーカーや保健師向けの専門研修については今後も引き続き参加し、さらなる知識・技術の習得に努める。	
令和4年度		東京都及び心身障害者福祉センターの実施するケースワーカーの専門研修や保健師の専門研修に参加し、知識の習得を図った。市内の放課後等デイサービス事業所にアンケートを実施した。今後、こども支援部会等と連携し、国民健康保険団体連合会からの審査結果の情報共有等についても検討を進める。	・医療的ケアを要する方を受け入れている事業所に対し、予算措置を。 ・職員の研修について、今後も積極的に受講できるような環境整備を図ってもらいたい。国保連審査結果の情報共有については、他の福祉サービスでの実施も期待したい。 ・多忙な中でも各種専門研修に着実に市職員を参加させている点は評価できる。オンライン研修等も活用し、引き続き専門性向上に努めていただきたい。市内放課後等デイサービス事業所に対して行ったアンケート結果を踏まえた課題の整理や解決について検討いただきたい。 ・各施設や部会等で独立した役割を果たすだけではなく、会議だけではなく横のつながりやチームとしての繋がりの強化を検討してほしい。		東京都等が実施する職員の専門研修等に積極的に参加し、さらなる知識・技術の習得に努める。 また、令和4年度に実施した障害者プラン策定基礎調査や障害福祉サービス事業所・障害福祉団体向けアンケート調査にて、障害のある方や障害福祉サービス事業所、障害福祉団体からいただいた意見や要望等を踏まえ、さらなる改善を図っていく。	

第6期障害福祉計画 目標等管理シート

成果目標	6 障害福祉サービス等の質を向上させるための取組に係る体制の構築		
令和5年度			

基本指針の目標		1 障害児支援の提供体制の整備等		
計画 (P) ↓ 実施 (D)	目標値	【令和5年度末までの目標】		
		①児童発達支援センターの設置及び保育所等訪問支援の体制整備		
		目標値	目標値設定の考え方	
		設置	令和元年度に児童発達支援センターである子ども発達プラザホエールを設置している。	
		設置	保育所等訪問支援事業については、令和2年度より子ども発達プラザホエールで事業を実施している。	
		②重症心身障害児の支援体制の整備		
	目標値	目標値設定の考え方		
	1か所以上の設置	令和元年度末において、重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所が1か所確保されていることを踏まえ、当該事業所と連携し取組を進める。また、新たな事業所の確保について検討を行う。		
	③医療的ケア児支援のための関係機関等の協議の場の設置			
	目標値	目標値設定の考え方		
協議の場の設置とともに医療的ケア児等のコーディネーターの配置を検討	令和5年度末までに、保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設けるとともに医療的ケア児等コーディネーターの配置について検討を行う。			
主な活動指標 (内 容)	【活動内容】			
	年度	取 組 内 容		
	令和3年度	「子ども発達プラザ ホエール(児童発達支援センター)」として開設し、保育所等訪問支援事業を「子ども発達プラザ ホエール」の1か所で実施している。また、重症心身障害児の支援体制として放課後デイサービス及び児童発達支援事業所1か所と引き続き連携を図っている。		
	令和4年度	「子ども発達プラザ ホエール(児童発達支援センター)」において保育所等訪問支援事業を実施している。医療的ケア児の支援に係る関係者会議の設置に向け、庁内関係部署と検討を進めた。		
	令和5年度	—		
区 分	評価 (C)	協議会等意見	改善 (A)	
	【目標等を踏まえた評価や改善方法】	【評価等に対する意見】	【次年度における取組等】	
令和3年度	昭島市児童発達支援センターを開設し、保育所等訪問支援事業及び重症心身障害児の支援について各1か所設置している。重症心身障害児の新たな事業所の確保について引き続き検討し、医療的ケア児支援の関係機関等との協議の場の設置については、具体的な検討までは至らなかった。今後は、設置に向けての具体的な検討を庁内に進めていく。	将来の就労を希望する保護者に対し、就労支援センターや相談支援センターの周知があると良い。 市内事業所と市との連携について、会議の場の設定を以前から要望している。また、医療的ケア児の支援についても早急に関係者会議の設置が必要。 重症心身障害児の支援体制確保について、現在1か所のみであり、市との情報共有が必須となる。	医療的ケア児の協議の場の設置に向け、庁内部署及び医療機関との連携体制について具体的に検討を進め、取り組んでいく。重症心身障害児の支援体制整備に向けては、1か所以上の設置に向け、事業所と連携して具体的な話し合いの場を設け、検討を進める。	

第2期障害児福祉計画 目標等管理シート

資料4-4

基本指針の目標	1 障害児支援の提供体制の整備等		
令和4年度	<p>児童発達支援センター「子ども発達プラザ ホエール」を開設し、保育所等訪問支援事業を実施した。重症心身障害児の支援については、1か所設置をしており、新たな事業所の確保を検討する。医療的ケア児に係る関係機関等の協議の場の設置については、令和5年度の設置を決定し、庁内関係部署と設置に向けた具体的な準備を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害児の受入れ施設は市内に2か所あると考える。 ・障害児支援の提供体制の整備は施設設置のみで測るのではなく、支援の供給量や体制が十分であるかを図る必要がある。そのためにも協議の場設置をお願いしたい。 ・医療的ケア児への支援については、より一層の充実が望まれる。医療的ケア児等コーディネーターの効果的な配置や、児童発達支援センターとのより一層の連携をお願いしたい。 ・医療的ケア児に係る関係機関等の協議の場について準備を進めていることは評価できる。引き続き、協議の場におけるコーディネーター設置について検討していただきたい。 ・ホエールのみで市民サービスは足りているのか。再度、新たな事業の検討をお願いしたい。 	<p>児童発達支援センター「子ども発達プラザホエール」について、庁内関係部署とその役割について協議を進めていく。</p> <p>重症心身障害児の新たな事業所の確保に向け、引き続き検討を進める。</p> <p>医療的ケア児支援のため、医療的ケア児にかかる協議の場を設置し、保健、障害、教育等の関係機関と連携し、地域の状況の把握とともに情報共有を図っていく。</p>
令和5年度			